

加能民俗研究

2024 55

鶴祭の八神式に関する一考察

— 田中宣一の「雑神論」から

干場 辰夫 … 1

九学会連合能登調査と和歌森太郎

由谷 裕哉 … 23

〈金澤開市三百年祭〉の醸成と余韻

— 赤羽萬次郎・陸義猶・岡本兵四郎 —

大門 哲 … 39

編集後記

本年一月一日午後、能登半島を大地震が襲った。この震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りし、また被害を蒙った方々にお見舞い申し上げます。

本号はこの震災の影響もあり、五二号（全五八頁）、五三号（全五四頁）のような比較的薄い号に戻ってしまった。それでも、何とか三名の執筆者による論考を得ることができた。

巻頭の干場論文は、鶴祭の直前に気多神社齋館にて非公開で行われる「八神式」を考察している。論の後半に「雑神」という概念が取りあげられ、「八神」と関連づけられるのがきわめて興味深い。

由谷論文は、九学会連合能登調査に関わる考察の第二段（第一段は本誌四二号）で、和歌森太郎の同調査への関わりを考察したものの。本会の一月例会のために準備していた内容を、同例会が地震により延期されたので、発表できないまま纏めたものである。

大門論文は、羽賀祥二はじめこれまで注目されてきた明治二四年の「金沢開市三百年祭」について、地元の新聞記事などを元に考察している。メディア間の攻防や執行期日延期の背景など、おそらくこれまででとりあげられていなかった問題にも光が当てられている。

（編集担当幹事 由谷裕哉）

〈投稿要領〉

- 一、「加能民俗研究」は一地域であっても、全国的視野に立つ考察をしたものを、お寄せ下さい。
 - 二、原稿枚数四〇〇字詰原稿用紙で二十枚から三十枚まで（図・写真を含む）。
 - 三、ワープロ原稿も可。枚数・字数とも厳守。（超過は実費負担）
 - 四、文献資料については、古文書のうち、民俗学に関係するもので、未復刻・未刊のものに限る。四〇〇字詰め原稿用紙十枚程度。
 - 五、表記は現代かな遣い、常用漢字によるが、学術上やむを得ないものについてはその限りではない。
- 投稿の際、抜き刷り部数を付記して下さい。三十部を標準としますがそれ以上でも用意します。（但し実費負担）

加能民俗研究第五十五号

令和 六年三月二十二日発行

編集 加能民俗の会 編集幹事会

発行 石川県金沢市出羽町三番一号

石川県立歴史博物館内（〒九二〇・〇九六三）

加能民俗の会 会長 小林 忠雄

（振替口座）〇〇七五〇・九一三三七八

電話（〇七六・二六二・三三三六）

印刷 株式会社谷印刷 金沢市中村町二八・一四（〇七六・二四二・七二六七）